

3. 消化器内科コース

第三内科部長	岩村 伸一 (指導責任者)	日本肝臓学会専門医 日本消化器病学会指導医 日本内科学会認定内科医
第三内科副部長	岡崎 三千代 (指導医)	日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医
医師	内多 訓久 (指導医)	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医
後期研修医	中山 瑞	日本内科学会認定内科医
後期研修医	川田 愛	日本内科学会認定内科医
後期研修医	小島 康司	

【一般目標：GIO】

消化器内科医として幅広い見識を持ち、常に診療技能の向上に努めることで社会に貢献できる医師を養成する。

【行動目標：SBOs】

- ① 主な内科疾患における診療の原則を理解し、実践する。
- ② 消化器疾患について専門的知識を学び、診断・治療手技を身につける。
- ③ 科学的視点で問題点を発見し、自己研鑽に努める習慣をつける。
- ④ 日本内科学会認定内科医を取得する。

【取得可能資格】

日本内科学会認定内科認定医
日本内科学会認定内科専門医
日本消化器内視鏡学会専門医

【経験目標症例等】

①症例数

主要疾患名	症例数	経験目標症例数
食道癌	15 例/年	3 例/年
胃癌	30 例/年	8 例/年
胃十二指腸潰瘍	85 例/年	15 例/年
大腸癌	30 例/年	6 例/年
炎症性腸疾患	10 例/年	2 例/年
胆嚢・胆管炎（結石含む）	85 例/年	15 例/年
急性肝炎	8 例/年	2 例/年
慢性肝炎	28 例/年	6 例/年
肝硬変（静脈瘤、腹水、脳症）	54 例/年	12 例/年
肝癌	36 例/年	8 例/年
膵癌・胆管癌	48 例/年	10 例/年
急性・慢性膵炎	25 例/年	5 例/年
食道静脈瘤破裂	23 例/年	4 例/年
出血性胃十二指腸潰瘍	85 例/年	15 例/年
大腸出血	75 例/年	15 例/年
急性胆嚢・胆管炎	85 例/年	15 例/年
急性膵炎	15 例/年	3 例/年
イレウス	50 例/年	10 例/年
消化管異物	15 例/年	3 例/年

②手技等

手術又は手技等	手術又は手技等件数	経験目標件数
上部消化管内視鏡	2,426 例/年	400 例/年
大腸内視鏡	994 例/年	150 例/年
胃ポリペク・EMRC	11 例/年	2 例/年
胃ESD	25 例/年	4 例/年
大腸ポリペク・EMR	133 例/年	25 例/年
EVL+EIS	36 例/年	6 例/年
上部消化管止血術	92 例/年	15 例/年
下部消化管止血術	18 例/年	4 例/年
異物除去	12 例/年	3 例/年
PEG	20 例/年	6 例/年
EUS	12 例/年	2 例/年
ERCP	35 例/年	7 例/年
EST	37 例/年	5 例/年
EML+採石	26 例/年	5 例/年
ERBD+ENBD	14 例/年	4 例/年
PTCD+PTGBD	45 例/年	10 例/年
肝生検	14 例/年	3 例/年

【その他特色】

- ・救命救急センターを併設しており、消化器救急疾患を含む豊富な症例を経験できる。また、内視鏡検査は年間4,000例で手技の研修には十分な症例があり、内視鏡システムは最新のハイビジョン観察が可能となっており、より専門性の高い特殊光・拡大内視鏡・超音波内視鏡が研修できる。内視鏡システムは最新のハイビジョン観察が可能で、より専門性の高い特殊光・拡大内視鏡も見学、実践できる。
- ・2000年よりESD施行しておりノウハウの蓄積がある。研修希望者はトレーニング可能である。また、カプセル内視鏡が実施可能な施設である。